

連続公開セミナー「食べものの危機を考える」  
2012年度 第1回@明治学院大学



スモールマーケット  
～つながりが見えるマーケットの  
課題と可能性～

日本国際ボランティアセンター(JVC)  
南アフリカ事業担当 渡辺直子

# JVC: 世界9ヶ国 + 日本で活動中(1980年～)



タイ



カンボジア



ラオス

人々が安心して  
くらすための活動



スーダン

日本

コリア



南アフリカ

パレスチナ



イラク



アフガニスタン



紛争下における  
人々の支援

# 本日の内容

- JVC南アフリカの活動(主に農業関係)
- 成果と課題
- 南アフリカ社会の歴史、背景
- 南アフリカ社会におけるマーケット
- 今後の課題、展望

# JVC南アフリカの活動：1990年代

**「アパルトヘイト(人種隔離政策)」が撤廃される前  
1992年より活動開始**

～2000年

- 女性グループの支援
- 都市スラムの生活改善支援
- UNHCRとの職業訓練
- 都市部における子どもの支援

**一貫して南アフリカ社会を担っていく人づくり、地域づくりを。**

# JVC南アフリカの活動:2000年～

農村部／都市部における  
環境保全型農業／家庭菜園づくり

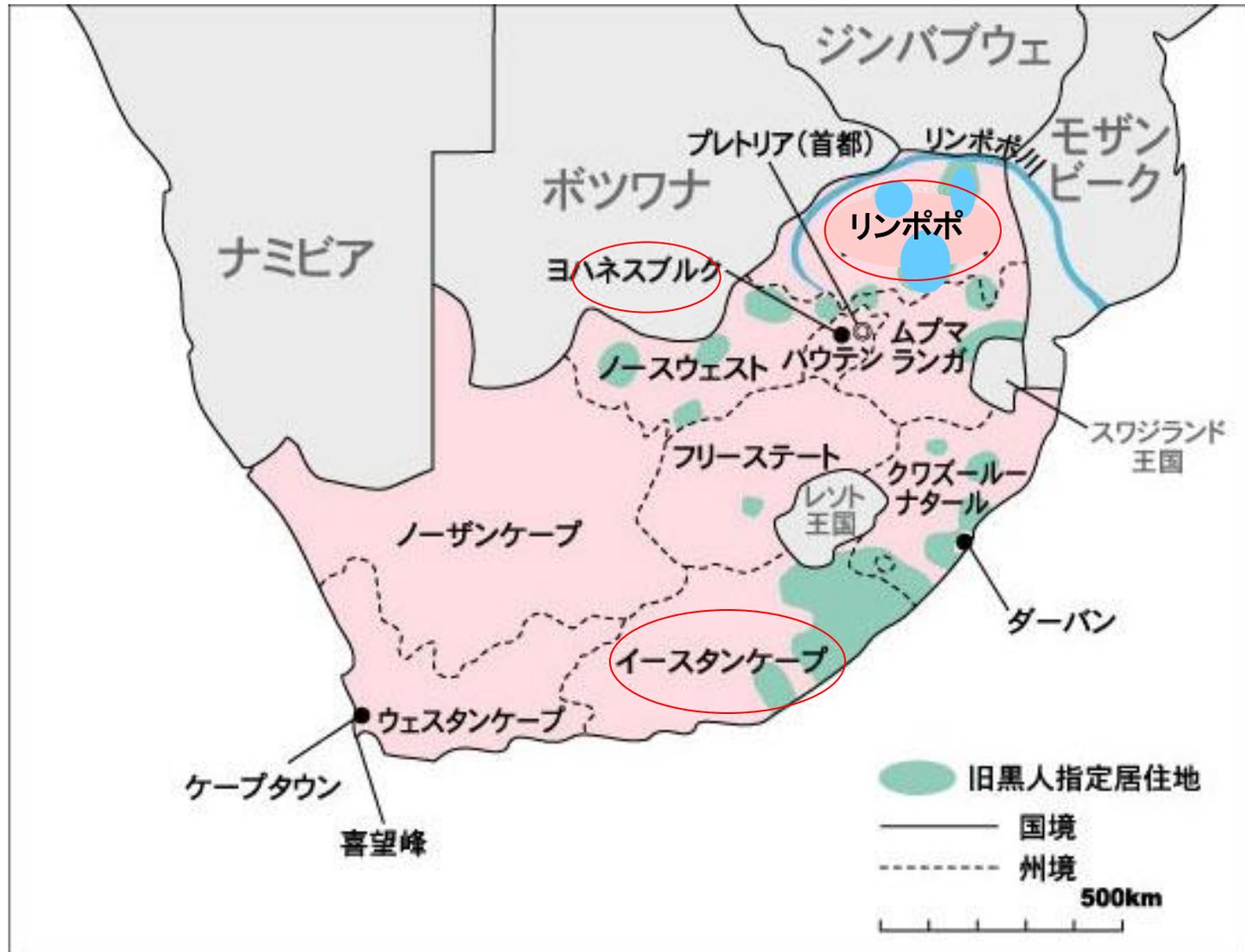


農村部における  
HIV/エイズ陽性者支援



- ・予防啓発活動強化
- ・訪問介護ボランティアの育成
- ・ケアの必要な子どもの支援
- ・HIV陽性者への支援
- ・家庭菜園づくり

# 活動地



## <背景>

「とにかく食べられるように」

「せめて食べ物だけでも自分でつくろう」

活動を通じて、自信・尊厳の回復を

⇒ お金をかけない = あるものを生かす

⇒ 環境に負荷をあたえない

果樹



↓液肥



混作



デザイン



有機堆肥



採種  
↓保存



マルチ



## • 技術的な持続性

(お金をかけずに野菜がつかれるようになった)

→ 支出減(食費、交通費、医療費)

→ 収入増(近所の人への販売)

→ 女性が自由にお金を使える

→ 継続的に食べられる

→ 体調がよくなる

→ 食料価格高騰の影響を受けにくい

## • 自信を取り戻す

## • 村人から村人に広げられるように

→ 持続性

- 援助の弊害
- 家畜管理の難しさ
- 数の広がり少なさ

(2001年開始当時研修参加者200名

→2006年終了時50名が篤農家に

2007年以降トレーナー育成のためのトレーニング

篤農家に学んで実践する人→2009年末時点で61名)

←「収入向上」小さい

←男性の理解得られず

**「ローカル／スモールマーケットがない」  
という南アの特徴**

# 南アフリカの歴史、背景

1652年 オランダがケープ植民地設立

1814年 イギリスにケープ植民地割譲

1899-1902年 ボーア戦争(イギリスvsオランダ系入植者)

1948年 国民党政権誕生

→アパルトヘイトが制度化

1994年 全人種参加の総選挙

マンデラ政権誕生

→民主化「虹の国」をめざす国づくり

## アフリカーンス語で「隔離」 = 黒人差別政策の徹底

- ・ 人口10%の白人が90%の非白人を支配
- ・ 黒人は国土の14%のホームランドへ移住
- ・ 人種別の居住地区、諸施設、教育・福祉制度
- ・ 教育予算は白人：黒人 = 20：1



# アパートヘイト

黒人は国土の14%のホームランドへ移住  
+  
移動を禁じられる  
人頭税、家畜税をかけられる  
あらゆる生産行為を禁じられる

⇒現金が必要に

⇒白人大農場、都市鉱山への出稼ぎ

農業の衰退  
受け継がれない伝統  
家族の分断  
不安定な生活基盤

# アパートヘイト

黒人は国土の14%のホームランドへ移住  
+  
移動を禁じられる  
人頭税、家畜税をかけられる  
あらゆる生産行為を禁じられる

⇒現金が必要に

⇒白人大農場、都市鉱山への出稼ぎ

農業の衰退

黒人社会の崩壊

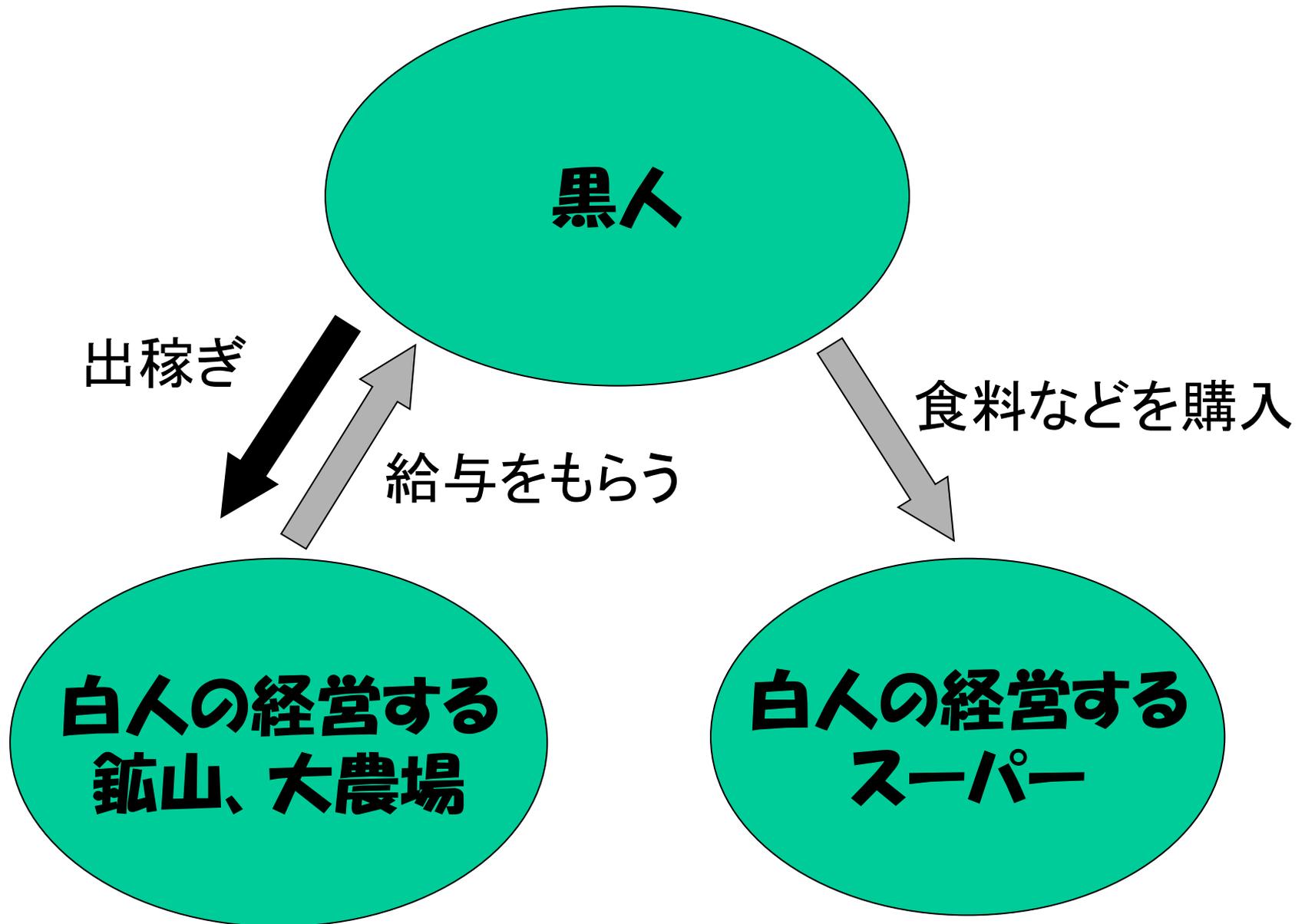
不安定な生活基盤

# 土壤浸食の激しい土地



**農村なのに、  
自給率が10%以下**

# アパルトヘイト 社会構造



**農村地域に住む  
農人**

**手元にお金が残らない**



**いつまでたっても  
生活が楽にならない**

**白人の経営する  
鉱山、大農場**

**白人の経営する  
スーパー**

**完全な出稼ぎ社会**

**その結果・・・**

**黒人の白人社会への  
依存体制を形成**

**黒人から自尊心と  
主体性を奪う**

# 「格差社会」 南アフリカ



# 「格差社会」 南アフリカ



# 「格差社会」 南アフリカ

「世界の縮図」



# 南アフリカのマーケット(農村)

←リンポポ州の農村部の  
ショッピングモール



同じエリアの露店→  
野菜はどこから来ているか？



- 援助の弊害
- 家畜管理の難しさ
- 数の広がり少なさ

(2001年開始当時研修参加者200名

→2006年終了時50名が篤農家に

2007年以降トレーナー育成のためのトレーニング

篤農家に学んで実践する人→2009年末時点で61名)

←「収入向上」小さい

←男性の理解得られず

**「ローカル／スモールマーケットがない」  
という南アの特徴**

# 環境保全型農業 / 家庭菜園づくり：特徴

活動の対象者は…

⇒地域に残っている人

=何らかの事情で出られない人 / 出たくない人

≠「出稼ぎ」

**「ローカル / スモールマーケットがない」  
という南アの特徴**

●作っても売れない

●「その先」が見えない

●農業で生きていくという発想がない、希望が見えない

⇒広がらない

⇒特に男性が関心を示さず

⇒若い人にも伝わらない

→出稼ぎへ

# 例えばジンバブウェの場合・・・



南ア資本のスーパーマーケット  
(ハラレ市内)



都市部、農村部そこら中にある  
ローカル/スモールマーケット

# 地域でつくられたものが売られている



# 地域でつくられたものが売られている



## 南アのジュース (リンポポ州農村)



## アボガドジュース (エチオピアの農村)



# 例えばジンバブウェの場合・・・マーケットがあると

## ●近くで売買できる場がある

- ⇒外部経済の影響を受けない地域循環
- ⇒こつこつと生活を改善していけるという希望
- ⇒農業で生きていける。仕事のひとつとしての発想
- ⇒近くで何でも手に入る便利さ

逆に大きなスーパーしかないと・・・

- ・安定した量の供給ができない
- ・競争相手が大規模農場
- ・買い叩かれる

=販売できない

# JVC南アフリカでの試み：タイへのスタディツアー



# JVC南アフリカでの試み：活動地間の経験交流



# セリーナさんの場合・・・



# ンディビさんの場合・・



# ンディビさんの場合・・・

**二人とも、自分の人間関係を活かして販売**

**⇒しかし近い人間関係をベースにすると**

**「あげて／もらって当然」という側面も**

**⇒(売る側として売れる)量にも限界がある**

**「ローカル／スモールマーケット」**

**=金を介在させてモノを交換する場**

**=地域をつくるという機能**



# 考えていること、知りたいこと

- 農村で生きたい人、残らざるを得ない人がどうやって安心して、幸せに暮らせる社会を作れるのか。

「地域でヒト、カネ、モノがまわる場」が鍵となる

- ⇒ どのような形がありうるか？
- ⇒ 「スモール／ローカルマーケット」か？
- ⇒ あるいは人間関係や家畜の介在などをベースとした別の形か？
- ⇒ 月一度の年金支給日に開かれる村内マーケットなど「あるもの」を活用していくべき？
- ⇒ 他の国の事例は？